【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成30年3月22日(2018.3.22)

【公開番号】特開2016-158056(P2016-158056A)
【公開日】平成28年9月1日(2016.9.1)
【年通号数】公開・登録公報2016-052
【出願番号】特願2015-33743(P2015-33743)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　5/64　(2006.01)
Ａ６１Ｍ　21/00　(2006.01)
Ｇ０９Ｇ　5/36　(2006.01)
Ｇ０９Ｇ　5/00　(2006.01)
Ｇ０９Ｇ　5/38　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　5/76　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　5/64　５１１Ａ
Ａ６１Ｍ　21/00　Ｚ
Ｇ０９Ｇ　5/36　５１０Ｍ
Ｇ０９Ｇ　5/00　５５０Ｂ
Ｇ０９Ｇ　5/00　５３０Ｔ
Ｇ０９Ｇ　5/38　Ａ
Ｈ０４Ｎ　5/76　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成30年2月8日(2018.2.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
対象物が第１状態と第２状態とを反復動作する動画データを出力する動画データ出力部と、
前記動画データによる動画を表示する動画表示部と、
前記反復動作の表示条件を設定可能な表示条件設定部と、を備え、
前記表示条件は、前記第１状態から前記第２状態へ移行する速度である順方向速度及び前記第２状態から前記第１状態へ移行する速度である逆方向速度を含むことを特徴とする表示装置。
【請求項２】
請求項１に記載の表示装置であって、
前記動画は前記第１状態から前記第２状態に移行する順方向移行及び前記第２状態から前記第１状態に移行する逆方向移行と、
前記逆方向移行と前記順方向移行との間で順方向待機時間の間待機する順方向待機状態と、
前記順方向移行と前記逆方向移行との間で逆方向待機時間の間待機する逆方向待機状態と、を有し、
前記表示条件は前記順方向待機時間及び前記逆方向待機時間を含むことを特徴とする表示装置。

【請求項３】
請求項１または２に記載の表示装置であって、
前記動画には前記対象物の複数の状態に対応する画像が含まれており、前記表示条件は前記第１状態に相当する画像及び前記第２状態に相当する画像を含むことを特徴とする表示装置。
【請求項４】
請求項１～３のいずれか一項に記載の表示装置であって、
前記動画表示部はヘッドマウントディスプレイであることを特徴とする表示装置。
【請求項５】
請求項１～４のいずれか一項に記載の表示装置であって、
前記第１状態とは、手を開いた状態であり、
前記第２状態とは、手を握った状態であることを特徴とする表示装置。
【請求項６】
設定された動画の表示条件に応じて、第１状態と第２状態との間で反復動作する動画データを表示すること、を有し、
前記表示条件は前記第１状態から前記第２状態へ移行する速度である順方向速度及び前記第２状態から前記第１状態へ移行する速度である逆方向速度を含むことを特徴とする表示方法。
【請求項７】
コンピューターを、
動画の表示条件を受け付ける表示条件受付手段と、
前記表示条件に合わせた動画データを表示部に出力する動画データ出力手段と、として機能させるためのプログラムであって、
前記表示条件は、対象物が第１状態から第２状態へ移行する速度である順方向速度及び前記第２状態から前記第１状態へ移行する速度である逆方向速度を含むことを特徴とするプログラム。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
本適用例によれば、表示装置は逆方向移行と順方向移行との間の順方向待機状態で順方向待機時間の間待機する。さらに、表示装置は順方向移行と逆方向移行との間の逆方向待機状態で逆方向待機時間の間待機する。順方向待機時間の間に患者は逆方向移行から順方向移行に思考を切り替える準備を行う。同様に、逆方向待機時間の間に患者は順方向移行から逆方向移行に思考を切り替える準備を行う。そして、順方向待機時間及び逆方向待機時間は患者の体調により適切な時間が変わるので、訓練を行うたびに調整することが好ましい。そして、本適用例の表示装置は表示条件設定部にて順方向待機時間及び逆方向待機時間を入力して動画を調整できる。従って、順方向待機時間及び逆方向待機時間を患者の状態に適した時間に都度変更した動画を容易に表示できる為効率良く訓練を行うことができる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６７】
手３ｃの開閉を第１状態３６に思念する訓練が不慣れのときには、手３ｃの開閉が狭い方が思念し易い場合がある。このときには、第１状態３６及び第２状態３７を調整して患

者３が思念し易い状態を示す動画２３に設定して訓練する。また、訓練に慣れたときには第１状態３６及び第２状態３７を調整して患者３が思念し難い状態を示す動画２３に設定して訓練する。これにより効率性良く訓練を行うことができる。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７０】
手３ｃの開閉を思念する訓練が不慣れのときには、動画２３における手３ｃを開閉する早さが早いと思念し難い場合がある。このときには、順方向速度や逆方向速度を遅くして患者３が思念し易い状態の動画２３に設定して訓練する。また、訓練に慣れたときには順方向速度や逆方向速度を早くして患者３が思念し難い状態の動画２３に設定して訓練する。これにより効率性良く訓練を行うことができる。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７３】
手３ｃの開閉を思念する訓練が不慣れのときには、順方向待機時間３５ａ及び逆方向待機時間３４ａが短いと思念し難い場合がある。このときには、順方向待機時間３５ａ及び逆方向待機時間３４ａを長くする。そして、患者３が待機時間の間に思念する準備をし易い状態にして訓練する。また、訓練に慣れたときには順方向待機時間３５ａ及び逆方向待機時間３４ａを短くして患者３が思念し難い状態の動画２３に設定して訓練する。これにより効率性良く訓練を行うことができる。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７６】
（３）本実施形態によれば、幻肢痛治療支援装置１は順方向待機３５で順方向待機時間３５ａの間待機する。さらに、幻肢痛治療支援装置１は逆方向待機３４で逆方向待機時間３４ａの間待機する。順方向待機時間３５ａの間に患者３は逆方向移行から順方向移行に思考を切り替える準備を行う。同様に、逆方向待機時間３４ａの間に患者３は順方向移行から逆方向移行に思考を切り替える準備を行う。そして、順方向待機時間３５ａ及び逆方向待機時間３４ａは患者３の体調により適切な時間が変わるので、訓練を行うたびに調整することが好ましい。そして、本実施形態の幻肢痛治療支援装置１は表示条件入力部１６にて順方向待機時間３５ａ及び逆方向待機時間３４ａを入力して動画を調整できる。従って、順方向待機時間３５ａ及び逆方向待機時間３４ａを患者３の状態に適した時間に都度変更した動画を表示できる為効率良く訓練を行うことができる。